

令和6年6月24日

JARL 渡島檜山支部会員の皆様へ

JARL 渡島檜山支部
支部長 佐々木 朗 JH8CBH

令和6年度 JARL 渡島檜山支部運営方針

0 始めに（立候補の所信）

「アマチュア無線新発見・再発見」をスローガンに、支部会員を大切にした支部事業の活性化に努めます。具体的には、

- ①製作教室、体験運用などを通して若者世代の免許取得を働きかけます。
- ②支部会員の多くが楽しめる、また再開局のきっかけとなるような事業を推進します。
- ③アマチュア無線の社会貢献の礎を築きます。

1 支部運営方針の基本

- (1) 伝統の JARL 渡島檜山支部のこれまでの活動を引継ぎ、支部大会にて、会員に活動報告と、活動方針を説明する機会を設け、支部としての責任を持った運営を行う。
- (2) 現にアマチュア無線を楽しんでいる方が、より一層楽しめるような研修会や懇親会などのイベントを企画する。
- (3) 新しくアマチュア無線に出会う方、またその昔にアマチュア無線を楽しんでいた方が、アマチュア無線の楽しさを得ることができるようイベントを企画し、渡島檜山支部のアクティビティーが上がるような、JARL 会員が増加するような活動を行う。
- (4) アマチュア無線の社会貢献に鑑み、関係機関・自治体町内会と連携した非常通信体制の整備に努める。
- (5) 一般会計、特別会計、その他（あれば）の金銭の扱いについては、原則公表とし、特段の配慮をしていく。また、予算は、可能な限り、個人に還元するのではなく、支部運営、会員の増強に使っていききたい。特別会計についても、必要と判断されることには厭わない体制とする。

以下、2、3に具体的な内容を述べるが、会員のご意見をよく聞いたうえで、実施するもの、改善するもの、実施を見送るものなど、仕訳をしながら、無理をせず実施していきたい。

2 具体的な活動内容（既存の事業、再開事業）

(1) 支部大会・ハムの集いについて

当初の計画では、11月17日の実施となっているが、暖かく、まだまだ日が長い9月に設定する。開催場所は、函館市内近郊及びそれ以外の地方の交互開催も検討するが、今年度については、函館近郊（函館市、七飯町、北斗市）で検討したい。

支部のこの一年間の事業や活動方針、会計などを伝え、支部会員が意見交流ができる場としたい。この2年間、支部大会の名称が消えているので、それも含めての回数とし、支部大会・ハムの集いとしたい。

また、抽選については、前回立候補時に「抽選はなし」ということを伝えましたが、抽選が楽しみであるという多数の意見もあったことから、今年度については抽選会を行うが、無線機については、使ってもらふことなどの条件を付したいと考えている。

(2) 青少年のための科学の祭典について

コロナ禍で5年ぶりの開催となっている。8月25日(日)函館市民会館2階小ホール及び大ホールであり、会場はだいぶ以前の場所に戻った形となる。子どもたちの科学の目を育てるための貴重な機会としても、実施していく。あいにく東京ハムフェアと日程が重複してしまった。

(3) フォックスハンティングについて

廃止になった事業であるが、20年以上継続してきた事業であること、アンテナやアッテネータの工夫などアマチュアらしさが現れる事業であること、また、懇親会を楽しみにしている方も多いなど、この秋に復活の方向で進める。

(4) ロールコールについて

数年続いている事業であり、今後も継続する。開催日程は、毎月の第一土曜日の午後8時を崩さないこととしたい。

(5) 非常通信伝達訓練について

3年前のレピータ利用から、2mのシンプレックス交信に戻った。その成果を伺った上で、2mの方が運用上優れているのか、レピータを生かすのか、併用するのかについて検討したい。また、非常通信ボランティアを再構成し、万が一の時の体制づくりなどを早急に検討する。また、函館市総務課防災担当との連携状況なども伺い、連携を深めていく。

また、非常通信伝達訓練とは別に、通信状況、無線機のメンテナンスを兼ねて、定例の了解度交換を行う。

組織対応が必要であるため、支部の非常通信ボランティアについては、支部直下に位置づく組織とする。

(6) 支部コンテストについて

予定通り、9月6日(金)18:00~8日(日)18:00まで実施する。次年度について、48時間(コンテスト時間としてはあまり見かけない長さであり、十数年前の一週間から見直した)について、意見を募ったうえで、調整を図りたい。いかに参加者を確保して、「渡島檜山の局がない(少ない)」と言われないようにするかが課題である。

(7) 津軽海峡コンテストについて

基本的には、従前通り5月のゴールデンウィーク明けに実施したい。支部間の連携(申し合わせ事項など)を密にし、両支部でルール等に差異がでないよう細心の注意を図る。賞状については、紙で発行したいという気持ちがあるが、その辺も青森県支部から経緯を伺った上で判断したい。

局数では青森県支部の方が圧倒的勝っているが、渡島檜山支部が優勝し、優勝旗が津軽海峡を渡ったことも数回ある。令和7年度は、支部対抗で勝利することを特段の目標としたい。

(8) 青森県支部との交流について

津軽海峡コンテストを始める前年あたり、つまり二十数年前から続いている交流である。それぞれの支部大会の前夜祭及び当日に参加するものである。一時は、かなりの局が行き来していたが、だんだん参加者は、減りつつある。ここ数年は、こちらから行くより、青森から来ていただく方が、多くなっている。旅費・宿泊費は各自持ちとなることから強制はできないが、伝統の交流について、特段の配慮をお願いしていく。

(9) アマチュア無線に関する講座について

ここ数年コロナ禍もあり、実施できたりできなかったりしていた。コロナも一段落したところで、真剣に考えたい。昨今は新しいデジタル通信方式、電子QSL、コンテスト集計の電子化、高い周波数での運用、アンテナの製作、また伝統的なモールス通信など、話題提供は十分あると考える。また、キットの制作会なども行い、一日日程で行うことができないかと考えている。

(10) 支部報について

支部大会に合わせて発行したい。今年度は後述する、渡島檜山支部結成 50 周年記念誌を発行したく思うので、内容については、あまり欲張らずに編集したい。なお、支部報については、ダウンロード、紙のいずれも選択できるようにし、全ての会員に情報が届くようにしたい。

(11) モールズ講習会について

通信士の街函館を持つ渡島檜山支部にとっては、かつてはモールズ通信がとても盛んな支部であった。このことを受けて支部では二十年以上前から、支部主催、支部共催によるモールズ講習会を開催してきた。本年度も支部事業に位置付け、冬季に講習を実施したい。今年（令和 6 年 1 月）は 2 m で行ったが、2 m, ZOOM のいずれが適しているかなど、後日検討していきたい。

(12) 監査指導について

ガイダンス局の運用を始め、日常もワッチし、コールサインの送出などと呼び掛けていき、クリーンなアマチュアバンドを目指す。オーバーパワーなどにも監視の目を向けていきたい。また、正しい運用などについて、随時呼びかけていく。

(13) 講習会への支援

講習会スタッフと連携をしながら、講習会の実施に協力していく。また、開局の相談、ビギナーズセミナーなど必要に応じて開催していきたい。

アマチュア無線の社会貢献に結び付けながら、災害時の通信体制をより強固なものにするため、モデル地区を設けながら、町会・自治会などに団体での免許取得などを促し、その活用の基盤づくりを進めたい。

3 新規事業、再開させたいと考えている事業

(1) 地域クラブの再開

現在の渡島檜山支部の現状を見ると、いくつかのクラブがあるが、その運営に苦慮しているところも少なくないようである。

そこで、函館を中心とした地域クラブを再開させたい。現在、ほとんどすべての事業は J A R L 渡島檜山支部直結となっている。限られた役員の中で、一人一人の掌握ができづらい状況になっている。

私の構想として、クラブの目的として、①会員一人一人の掌握、②クラブ局のコールサインを持ち、無線機・アンテナを財産として持ち、日常の運用をする。（体験局などに活用したい）③支部で扱いにくい、懇親会などの運営を担う。④支部と連携しながら、各種の事業を持ちたてる。などを考えている。支部単独では持ちにくい財産やコールサインを持つことが考えの中心となる。

函館の地域クラブに関しては、自然消滅（言葉が適切でなかったらすみません）をしている。以前の支部長時代に、当時のクラブに所属していた方で、現在もアマチュア無線を楽しんでいる方については、今後、その扱いについては支部に一任するという約束（口頭）はいただいていることを申し添える。

(2) 2m を盛り上げる会

ローカル局が気軽に集い、会食を通して、懇親を深めることは、支部の連携強化、そして、人のネットワークづくりには大切と考えている。比較的安価な店を探し、フランクなイメージで、不定期ながらいわゆる「飲み会」を開催したい。いずれ、地域クラブが発足すれば、運営をそちらに委ねたい。

(3) 特別局の運用

特別局は、支部の様々な観光や事業などの PR になる一方、無線仲間が集い、通信技術の向上を図ることではとてもいい機会となる。また、体験運用などの機会としていきたい。定例のものとして、電波クリーン月間、コナン君関係（現支部長に打診中）などが考えられる。そのほかにも、アイデアがあれば積極的に検討していきたい。（JARL の承認まで最低 3 か月ぐらいかかることから早め早めに着手していく）

(4) 支部結成 50 周年記念式典・記念誌の作成

令和 5 年が支部結成 50 周年の年であったが、一年遅れであるが、実施していきたい。これまで渡島檜山支部では、30 周年、40 周年と記念誌を発行し、式典を行ってきた。大きな節目となるこの時期に、支部結成の 50 年を会員、その他関係者で祝い、次の 10 年へとつなげていきたい。支部会員のご意見を伺った上で、判断していきたい。

(5) 再開局の PR

近年 HF 帯で運用していても、いわゆる再開局組がかなり多数オンエアしている。支部としても、過去にアクティブに運用されていた方で、再開局の可能性のありそうな方について、訪問などをして、呼びかけていきたい。

(6) 電波教室（ラジオ作り）の実施

北海道電波利用推進員協議会と連携しながら、電波教室を開催し、子どもたちにラジオづくりを体験させていく。本事業のみの単独開催は、昨年実施してみて、結構ハードルが高いことから、親子で、孫子での参加、また、子供向け、科学イベント、各種の市や公共のイベントなどでの出展という形も模索していく。

4 一社員として考えていること。

(1) 会員増強に向けて

会員増強特別予算なども含めて、JARL の意義を会員、その他入会を考えている方に発信し、会員数の維持、および増強を図っていく。

(2) JARL の動きに注目していく。

JN や理事会報告、また地方本部会議などの情報に目を通し、会員に情報を提供するとともに、会員の意見を広く聞き、必要と判断する事項については、社員総会に上程していく。

5 今後の推進日程について

- | | |
|-----------|--|
| 6 月 14 日 | 本文書を推薦者に送付。追加、削除、修正などを行う。 |
| 6 月 24 日 | 支部運営方針を発表・ホームページ公開 (OHS、郵送)
役員公募、依頼 |
| 7 月 14 日 | 第 1 回役員会●当初計画より一週間遅れ |
| 7 月 | ガイダンス局運用 (未定) |
| 7 月 27 日 | 体験局運用 (JA8RL)● (要検討) |
| 8 月 10 日 | 体験局運用 (JA8RL)● (要検討) |
| 8 月 24 日 | 第 2 回役員会 |
| 8 月 25 日 | 青少年のための科学の祭典参加 |
| 8 月 31 日 | 渡島檜山支部報発行 |
| 9 月 6 日 | 渡島檜山支部コンテスト● |
| 9 月 22 日 | 青森県支部大会に参加 (青函交流)●日程未定 |
| 9 月 | 支部大会・ハムの集い 第 3 回役員会 |
| 10 月 | クリーン電波特別局 |
| 10 月 | フォックスハンティング・交流会 (未定) |
| 10 月 13 日 | 第 4 回役員会● |
| 11 月 | 支部結成 50 周年記念式典・祝賀会 (未定) |
| 12 月 | アマチュア無線に関する講座 (未定) |
| 1 月 2 日 | 支部 QSO パーティー、石狩後志・胆振日高と連携● (要検討) |
| 1 月 1 日～ | モールズ講習会 |
| 1 月 | 第 5 回役員会 新年会 |
| 2 月 | 電波教室 (未定) |
| 3 月 | 第 4 回役員会 決算、事業報告 |

●は年度当初に入っていた行事 それ以外は新体制で追加した行事

随時

- ・ ロールコール実施 毎月第 1 土曜の 20 時
- ・ 非常通信に備えての機器点検コール
- ・ ホームページの管理
- ・ メーリングリスト (OHB,及び OHS) の管理

その他、実施の有無・期日未定のものについては、決まった時点で、随時予定に組み入れていく。

6 役員などについて

支部長を責任者とし、総務幹事、会計幹事、常任幹事（ここまでいわゆる四役）、理事 10 名程度を役員と構成を取りたい。監査指導委員もこの中に含めていく。

その下に、協力員として、イベントなどの運営、補助などに入っていただく方を確保したい。また、大先輩に重要な事項について相談する、「相談役」になっていたきたいと考える。

役員や協力員は、熱意を最優先とし、若い方、開局年数の長短にこだわらず、受け入れていきたい。

推薦者においては、役員として活躍してほしいという気持ちはあるが、あくまでもそれぞれの考えで判断していただければと思う。

7 情報発信、情報交流について

(1) 支部からの情報提供について

原則として、JN、ホームページ、ML、支部報などとするが、できるだけ最新の情報を届けたいことから、郵送なども考える。ただし、一部送料を負担いただくなども考えていく。

(2) ホームページについて

以前の JARL からいただいた HP アドレスに戻して運営。JARL から最新会員名簿を取り寄せ、メール、郵送などで知らせる。

<https://www.jarl.com/ohs/>

(3) メーリングリストについて

これまで通りの運用とする。OHS については、受信のみでよければ、jarl.com での登録も可としたい。

8 就任直後の情報発信・情報収集について

次のような内容で、発信、また、会員の意向を集約していきたい。

(1) 発信していくこと

この文書に記述された内容。追加、修正、削除したもの

(2) 集約すること

- ① メーリングリスト (OHS,OHB) への登録に関すること
- ② 役員・監査指導委員・協力員の登録について
- ③ 非常通信ボランティアへの登録について
- ④ 支部からの情報の伝達方法 (HP やメール、郵送、場合によっては手渡しなど) について。支部報、50 周年記念誌 (作成するとして) は、全会員に紙または、電子媒体で届けたい。
- ⑤ 支部への意見・希望などについて